

## 第6回 第6期中海自然再生協議会議事録

日時 平成27年3月14日(土) 15:00～16:20

場所 鳥取県西部総合事務所会議室

協議会に先だって以下の講演が行われた。

駒沢大学文学部 平井幸弘教授

湖と人とのつながりの再生 –霞ヶ浦での現状と課題–

(内容については別掲)

### 議事 15:00～16:00

- 1) 平成26年度環境省地域生物多様性保全活動支援実証事業『中海自然再生』実施計画(1.アマモ場の保全・再生、2.海藻類の回収及びその利用、3.砂浜の保全・再生事業、4.浚渫窪地の環境修復)について(報告にもとづく討議)

事業1および3については、湖岸域の再生として実質的に進められているが、その現状についての報告がなされた。水域については自然再生センターを中心としたベントス調査について徳岡から、陸域については米子高専の調査研究課題として進めている状況について熊谷から報告がなされた。1のアマモ場の再生については国井・奥森から現状が報告された。4の浚渫窪地については、中国電力の協力によって進められている細井沖窪地の実証事業の経過と成果が報告された。これらの後に第1期5ヶ年計画で進めている事業が3年を終えるにあたって、今後どのように進めていくかについての意見交換を行った。

## 報告

- 1) 平成 26 年度環境省地域生物多様性保全活動支援実証事業『中海自然再生』実施計画(1.アマモ場の保全・再生、2.海藻類の回収及びその利用、3.砂浜の保全・再生事業、4.浚渫窪地の環境修復)経過報告  
議事のなかで、それぞれの担当者から報告がなされた。
- 2) 推進法にもとづく事業ではないが、中海の自然再生に関わりの深い事業として島根・鳥取両県で行われている米子湾の流動調査の現状について担当者からの紹介がなされた。

会議を閉じるにあたり、国井事務局長から第 4 期の協議会についてはこれで終了となり、第 5 期(平成 27 および 28 年度)の協議会にむけて、公募委員の募集が 3 月 31 日を期限として進んでいることが報告され、新しい協議会は 6 ～ 7 月にスタートすることになるとの挨拶があった。